

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立津山東中学校

教育目標(めざす児童生徒像)		今年度の指導の重点
笑顔があり元気な学校 教育目標 自ら学び、考え、行動する 生徒の育成 心身ともに健やかな生徒の育成	目指す学校 落ち着いた学習環境 生徒の夢・目標の達成を支援する学校 自他の人権を尊重する学校 活力があり、魅力ある学校	目指す生徒像 自分の夢を持ってその夢の実現に 向けて日々努力する生徒 信じ合える友達と互いに磨き合って 成長していく生徒「切磋琢磨」
		あいさつ・そうじ・時間を守るの徹底 キャリア教育を視野に入れた学校 落ち着いた美しい学校の創造 校内研修、研究主題 「生徒の学び合いを通して、一人ひとりの学習を保障する授業づくり」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
(県) 漢字の読み書き、文法・語句の知識理解については平均値に近い値になっている。 四則計算の正答率は県の平均とほぼ同じである。 基本的なグラフの見方や図形の性質は理解している。 理科では生活経験のあるものは数値として正答率が高い。 文章を読み取る問題は苦手である。 新たな知識を習得すると既習の内容を忘れて(定着していない) 抽象的なものに弱い傾向がある。	(県、全国) 家庭学習時間や読書時間が短く、どちらも時間を多くかけている生徒は正答率が高い傾向にある。 TV、スマホの時間が長い。 地域との交流をもととしている。
(全国) 国語はA,Bとも全国、県の平均とほぼ同等、数学については、県平均との差が昨年度より縮まった。 書く力は全国に比べ、下回っている。 言語についての知識・理解については全国を上回っている。 手紙の書き方の理解度は高く、身につけている。 方程式や等式の問題の正答率が低い。 図形の基本的な知識はついている。 自分の考えや理由を説明したり、表現したりすることが苦手である。 無回答率が多くの問題で全国や県に比べて低くなっている。 *手紙の後付けの直し方 本校78.8%(全国58.2%)、語句を適切に使う 本校78.8%(全国70.8%) 必要な情報を選択して処理 本校40.9%(35.1%)	(県) 地域との交流をもととしている。 スマホなどの家の人との約束は守ろうとしている。 自分に自信がないからか、強く意思を持って活動に臨んでいる生徒が少ない。 自分以外のことについての関心が低く、外との交流が少ない。 自尊感情が低い。
	(全国) 道徳的な意識が高い生徒の割合が高い。 国語や数学が好き、よく分かる、できるようになりたいと感じている生徒が多い。 国語で解答を文章で書く問題で最後まで書くことと努力した生徒の割合や数学で最後まであきらめずに解こうとした生徒の割合が全国平均を上回っている。

成果と課題	課題に対応した改善方法
成果 最後まであきらめず、問題に取り組むことを目標に指導してきた成果が現れ、無回答率が大きく下がった。 ノーマディア週間の取り組みの成果が現れ、家庭学習時間が昨年と比べ、増えてきている。 3年生はやり遂げてうれしかったと感じる生徒が多く、そのため「自分によいところがある」と回答した生徒が多くなっている。	ペアやグループ学習を取り入れ、話し合い活動などで自分の考えを他の人に説明したり表現したりする場面を増やしていく。 教科の授業では途中の経過をきちんと書いたり、理由を説明したりする作業を怠らないに行い、学校生活や行事においても、感想や自分の考えを書いたりする機会を多く設ける。 放課後学習などの補充学習を行い、基礎学力の定着を図るとともに、学習習慣をつけていく。 ミニ学習を充実させ、基礎基本の定着を図る。また、定期的に全校一斉の統一問題を行い、学校全体で取り組むことにより、より生徒の意識を高める。
課題 全教科にわたって活用型の問題を苦手としている。 普段のインターネット、スマホ等の時間が多い生徒は家庭学習の時間も少なくなるため、正答率が低い。 宿題をしない生徒は学習内容が定着しないため、正答率が低くなっている。 記述式の問題を苦手としており、無回答率も高くなっている。	それぞれの宿題は何を目的にしているかということを明示し、見直しをもって取り組めるようにする。 活用力をつけるために、できるだけ探求型の課題を取り入れ、授業の中で、話し合いや討論の時間を増やしていく。 家庭の協力を得ながら、引き続きノーマディアデーの取り組みを行い、スマホ、インターネットの時間を減らせるようにする。
* 国語の言語に関する知識は本年度全国との差+0.4%(昨年度-2.6%)と確実に定着している。	

取組の検証方法及び検証時期	平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)
中2に学力定着状況たしかめテストの実施(11月) 生徒、保護者及び教員へのアンケートの実施(2学期末) 全校統一テストの実施(学期1回) 校内研究授業の研究協議等で検討(学期1回) 授業評価シート、振り返りカードを計画的に活用する(随時) 上記の結果を受けて改善方法の見直しを図る(随時)	スマホ、インターネットの時間(ゲーム以外)が1時間以上の生徒の割合を50%以下にする。 家で宿題をしているという生徒の割合と、復習をしているという生徒の割合の差を30%以下にする。 「理科の問題について解答を文章などで書く問題で最後まで解答を書くことと努力した」と回答する生徒の割合を50%以上にする。 数学の方程式の問題の正答率を県平均に近づける。